



課題図書とは…毎年夏休みに行われる、青少年読書感想文全国コンクールに出品するために推奨される図書のことです。作品の一部を、抜粋して紹介していきます！！

『低学年の部』



「ライオンの子のネズミ」作・さかとく み雪

父親の転勤がきっかけで、ライオンの国に引っ越しをしたネズミの一家。子ネズミは、ライオンが怖くて仕方ありません。そんな子ネズミとは打って変わり、両親はこの国を気に入った様子。ところが、ある事件をきっかけに、ライオンと、子ネズミはけんかをするようになります。さあ、その理由とはいったい…



「ぼくのねこポー」作・岩瀬 成子

どうしても「ねこ」が飼いたいぼく。ある日、迷子の「しましまのねこ」を見つけて家に連れて帰ります。「すてねこ」なら飼ってもいいわよというお母さんは、近所の人に聞いて回りますが、飼い主は見つかりません。ぼくは、ねこに「ポー」という名前を付けます。その頃、ぼくのクラスに転校生がやってきます。ぼくは、とても仲良くなりますが、その子の飼い猫が行方不明という話を聞いて…



「ともだち」作・リンダ・サラ

ぼくには、大切な友達がいる。名前は「エト」。いつも二人で遊ぶんだ。段ボールの箱を丘の上に持って上がって、その中で王さまになったり、空を飛んだりして遊ぶのがとっても面白いんだよ。なのに、知らない男の子がやってきた。名前は「シュー」。エトは、僕を置いてシューとばかり遊ぶようになってしまった。なんだか仲間外れになったような気がした僕は…



「ワレワレはアマガエル」作・松橋 利光

「カエル」と聞いて、皆さんが思い浮かべるのは？もちろんわれわれでしょう？でもね、体の色だったり、大きさや住んでいる場所。鳴き声なんかも気になりますよね。みどり色の、目玉の飛び出た小さなカエル。そうです！！われわれ、アマガエルの不思議、知りたくありませんか？

『中学年の部』



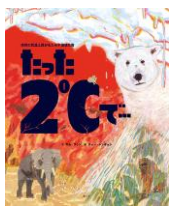
「ふみきりペンギン」作・おくはら ゆめ

小学三年生のゆうとは、左利きだとクラスでからかわれてしまいます。悔しくて、踏切の柵を握りしめていました。これは、ゆうとの、やる気の出ないときの充電方法。その時、踏切のむこうに現れたのは、五匹のペンギンと、うちの犬、マルでした。ひそひそと話すペンギンたちの話を聞いてみると、ゆうとの左利きをからかいはじめ…でも、もっとよく聞いてみると…？？



「バラクラバ・ボーイ」作・ジェニー・ロブソン

「バラクラ帽」をかぶった。転入生のトミーが僕らの学校にやってきた！でも、なんで帽子なんてかぶっているんだろう。不思議でしょうがないけど、あの帽子の下の秘密が知りたいぼくらは、何とかしてトミーに帽子を脱がせることを考える。だけど…何があってもトミーはぬがない。そこには、隠された理由があって…



「たった2℃で…地球の気温上昇がもたらす環境災害」作・キム・ファン

皆さんの平均体温は何度ですか？私たち人間の平均体温は、約36.5度前後です。それが、もし、急に2度上昇したら…もしくは、2度低かったら…人間は動けなくなります。それは、私たち人間だけではなく、地球も、他の動植物もみんな一緒なのです。地球の気候変動による温暖化は、今や世界問題です。私たちにできることは何なのかと、考えさせられる本です。



「ねえねえ、なにを見てる？」作・ビクター・ベルモント

家族と食事をするトーマスの机の上には、青いテーブルクロスに白いお皿が並び、次々においしそうな料理が運ばれてきます。トーマスは、他の人と見え方の違う男の子。でもね、小さい弟や、科学者のママ、画家のマルタおばさんの目にはどう見えているのだろう？同じ場所にいても、見ているものや見え方は人それぞれ全く違うのです。

『高学年の部』



「ぼくの色、見つけた！」作・志津 栄子

野菜や、肉が焼けた色のタイミングや、区別がつかないことから「色覚障がい」が発覚して、日々の生活を困難に感じる主人公の少年。わざと試すようなことをしてくる母親や、からかう同級生たち。でも眼科の先生は、個性の一つだよと励ましてくれる。親にも、友だちにも、誰にも理解されない自分の障がいと向き合い、障がい、個性とは何かを考えさせられる本です。



「森に帰らなかったカラス」作・ジーン・ウィリス

1957年・ロンドンの郊外で暮らす少年は、傷ついた鳥のヒナを連れて帰ります。それは、「ハシブトガラス」のヒナでした。「ジャック」と名付けたカラスは、看病のかいもあり、みるみる元気になりました。飛行訓練も行い、町の人たちからもかわいがられる存在となったカラスのジャック。そんなジャックは、蒸気機関車と一緒に飛ぶことを覚えてしまい…本当にあった、ノンフィクションのお話です。



「マナティーがいた夏」作・エヴァン・グリフィス

ぼくが11歳の夏休み。「マナティー」の話をよく聞かされてくれたおじいちゃん。そんなおじいちゃんのお世話をしながら、友だちのトミーと「生きもの発見ノート」を作ることにした。でも…すべてがうまくいかない。おじいちゃんの認知症は進んでしまうし、せっかく見つけたマナティーは、けがをしてしまう。そして、トミーは引っ越すことが決まってしまった。まわりの変化にほんろうされながら、どう立ち向かっていくかを考える。そんなお話です。



「とびたて！みんなのドラゴン：難病ALSの先生と日小合唱部の冒険」作・オザワ部長

合唱は未経験。でも、子どもたちに対する熱意と、子どもたちとの絆で、全国大会出場を目指す竹永先生は、だんだんと体が動かなくなっていく難病「ALS」と戦っていました。そんな中でも笑顔を忘れない先生と、内向的な女の子マナミ。自分自身と向き合いながら、一つの音楽を作り上げていきます。福岡県の北九州市立日明小学校で実際にあった、ノンフィクションのお話です。

📖 今年度の課題図書の貸し出しは、6月末日より 📖

～＊随時、貸し出しを始めています＊～